

共生委員会ニュース

# ともしび

2025年度 第3号

2026年2月

共生・探究学習委員会



## ◎平和・共生論文 代表生徒

### グローバルウィークの日程

今年度の平和・共生論文の各 HR の代表論文は下記生徒の論文に決まりました。

2月19日(木)には二年生を対象に、3月16日(月)には一年生を対象に、代表論文生徒による論文発表会が開催されます。

- 301 重枝夏帆 ホームレスの数を減らすことは平和共生につながるのか  
ーハウジングファーストから考える平和共生と支援の再構築ー
- 302 福田 芽以 暮らしを支える食とまちの在り方  
ーフードデザート問題から考える地域活性化への道のりー
- 303 三橋 彩葉 フェアトレード認証制度の隙間を埋める包括的支援とは  
ー次世代フェアトレードに向けた消費者リテラシーの必要性ー
- 304 永井 理桜 語られぬ「権利」  
ー中絶をめぐる法と社会認識に迫るー
- 305 的場 桜 認知症の人たちと地域で共に生きていくために
- 306 古田 紗季 可視化されない立場の人と共に生きていくために  
ー日本の貧困を改善するための意識改革ー
- 307 田中 舞 「子どもオンブズマン」導入による若者の投票率アップへの道  
ースウェーデンと東京都港区の事例から考える主権者教育と地方政治ー
- 308 村田 麟 人類の落とし物  
ー海洋ごみが侵食する海、私達人間はどう責任を取るか?ー
- 309 堀越 大輝 海そして私達を蝕む海洋プラスチック  
ー君たちは海を見たことがあるか?ー
- 310 徳永 寧々 戦争と他者の顔  
ーレヴィナスの倫理思想から考えるー

# ◎勉強会 in スターバックスコーヒー 報告

## BLUE PECO × フィリピンプロジェクト

このプロジェクトは、高等部の自主学習団体である BLUE PECO とフィリピンプロジェクトが主に取り扱っている東ティモールとフィリピンの2つの国の話を軸として、支援について皆で考えることを目的としたイベントです。2つの自主学習団体が共同で企画したイベントで、スターバックスコーヒー渋谷2丁目店をお借りして月に1回ほどのペースで既に2回開催しています。



去年の末に行われた1回目は「知ることは、つなぐこと」というテーマに沿って、東ティモールとフィリピンの魅力を、コーヒーと人々のあたたかさというそれぞれの視点からトークショー形式で紹介し、多くの参加者が興味深そうに聞いてくださりました。また、幕間で行った短いワークショップでも、東ティモールのコーヒー農家の未来を参加者全員で話し合い、未来に向かうための多種多様なアイデアが多く提案されました。

年が明けて早々に開催された2回目は、1回目の際に参加者が興味を示していたトピックを参考に、「共に描き、明日を創る」というテーマに基づいてより内容の濃いワークショップを2つのグループに分かれて行いました。参加者は東ティモールの「平和構築」、フィリピンの「子どもの夢」という2つのトピックから自分の興味がひかれるものを片方選択し、ワークショップに参加します。前回よりも長い時間をかけたからか、提示されたケースからより深く深く真剣に熟考する参加者の姿がたくさん見られました。

「支援」は私達から遠いものだったり敷居が高いものだったりということはありません。皆さんのすぐ近くにきっかけはあります。まずは知ることからはじめませんか？そして、知った上でどうすればいいか皆で考えませんか？支援は様々な難しい問題を孕んでいます。しかし、皆で考えればいろいろな視点から何かいい案が見つかるかもしれません。是非気軽に、私達の大好きな「東ティモール」と「フィリピン」について知ってください。BLUE PECO とフィリピンプロジェクトはあなたの参加をお待ちしています。

<p><b>BLUE PECO×フィリピンプロジェクト</b> <b>第3回 勉強会 in スターバックス</b></p> <p>日時：2026年2月16日（月） 場所：スターバックスコーヒー渋谷2丁目店 ※ワンドリンクの購入後、2階へお進みください！ お待ちしております！</p>	<p><b>BLUE PECO</b></p> <p>クラスルームコード</p>
	<p><b>フィリピンプロジェクト</b></p> <p>クラスルームコード</p>

## ◎作文：修学旅行 平和講話を聞いて

### 被爆を経験した語り部による平和講話

青山学院高等部の修学旅行では、長崎の原爆資料館や平和公園を訪問し、長崎市への原子爆弾投下がもたらした悲劇を学ぶとともに、「平和をつくる」とは何をどうすることなのかを考える機会を持っています。そのもっとも重要な学習プログラムの一つが被爆を体験された語り部による「平和講話」です。戦後 80 年を数え、徐々にその経験を語れる第一世代の方々も減ってきています。その平和への思いを直接聞くことができる貴重な機会を、可能な限り、大事にしていきたいと思います。

語り部： 清野 定廣 さん

2 年生 平田瑠衣

今回の講演で、講師の方が繰り返し言われていた「運良く」という言葉が一番心に残った。ご本人もご家族もちよとした行動や偶然で極めて直接的な被害は免れ、一方で村に戻ってきた少女たちは、ただ工場で働いていただけなのに、大きな怪我を負ってしまった。駅の光景を見て涙が出たのにも、そのような想いがあったのかもしれないと考察した。“運良く” 難を逃れた自分と、駅で横たわり、うめき声をあげる多くの人々、“運” で生死が決まってしまう、という無差別大量殺戮兵器の残酷さに改めて気付かされてしまった瞬間だったのではないか。

また、国による軍国主義教育の恐ろしさについても語られていた。本来は優しい心の持ち主であっても、国という大きな権力の下で、そう変わらざるを得ない状況だったと思うし、そう思い込まないと辛い戦時下を生きられなかったのかもしれないとも考えた。ないと信じたいけれど、もしかしたら現代社会にも国によって情報を操作されている、なんてこともあるのかもしれない。知る術がないので、どうすることも出来ないかもしれないけれど、こういうものにこそ、自分で考える力がとても重要になると思う。

講師の方が最後に仰っていた「戦争をするかしないかは自分次第」という言葉には、お話を聞いてすぐには理解しきれない深い意味があったと思う。我々一般市民には直接にはこのような重大な決断を下すことは出来ないけれど、選挙や声を上げることが、つまり一人ひとりの行動がとても重要になるようなことでしか政治に関わることが難しいと思う。一見すると関係がないように見えるものでも少し辿っていくだけで大きなつながりがあることに気付いた。改めて、今回の大変貴重なお話を聞ける機会があって良かったと思っているし、これを機に何か私の中で平和に対する見方が変わるかもしれない。

語り部： 木口 久 さん

2年生 河井未春

木口さんは講演の中で何度も「戦争はやめておけばよかった。アメリカという大国に勝てるわけがなかった」とおっしゃっていた。それは今日でもよく言われることではあるが、やはり実際に経験された方が言うというのは重みが違うな、と感じた。今回の話の中で初耳だった情報として、「一人一本竹槍で攻撃だ、と真剣に言っていた」というものがある。結果として、そんなことをしても機関銃で撃ち返されるのがオチだったようだ。私としては、これこそが当時の日本政府による洗脳を象徴する一例だと思った。今となっては勝ち目がないことなど明白なのだから、本当にいち国民である人びとがそのように無謀なことを画策したのか、にわかに信じがたい。しかし実際に当時の彼らはそうしたのだ。自分も少なからず力になれると考えての行動か、ものは試しの精神ゆえの行動かはわからないが、それによって振り返りにあってしまったのは、なんと虚しいことか、と心が痛む。

木口さんご自身、お母様を戦争で、とりわけ原爆で亡くされている。その悲劇がいに木口さんの記憶に刻まれているか、そしていかにその後の人生を形成しているかが、講演の随所から、また頂いたメッセージカードから強く感じられた。テレビやネットの記事を通して、はたまた学校の平和学習を通して、戦争をご経験された方が語る、家族を失ったエピソードに触れることはまれにある。しかし、不躰ながら聞き慣れてしまったために、それがどれほど辛いことかを忘れつつあった。ところが今回の講演で再び思い出すことができた。共感するまではできなくとも、その感覚を少しでも想像して、理解して、忘れずに生きてゆける人になりたいと思った。

木口さんが何度もおっしゃっていたこととして、「異常気象などの脅威にさらされている今日、戦争などしている場合ではない。手を取り合わなければいけない。」ということもあった。本当にそのとおりだと考える。この世界には、もっと目を向けて、対策を講じて、行動に移さなければならない事案がたくさんある。本当に「核や戦争の脅威」などに気がつかっている場合ではないのだ。地球人は皆して共倒れの方に向かっていることに危機感を持つべきではないだろうか。

